

2024年4月 愛の困難／ミレール&ズラウスキー：愛していると伝えて／大事なものは愛すること

新文芸座シネマテーク

Dites-lui que je l'aime
L'important c'est d'aimer

difficultés de l'amour

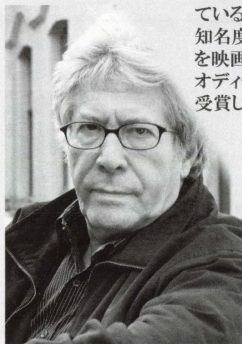


新文芸座



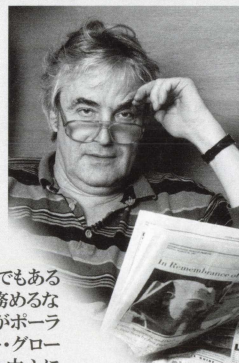
クロード・ミレール Claude Miller

1942年、ユダヤ人家族で生まれる。1961年にIDHEC卒業後、マルセル・カルネやブレッソン、ゴダール、ドゥミラの助監督を務め、時に出演もした。『恋のエチュード』などトリュフォー作品の製作主任として知られるようになり、76年に『いちばんうまい歩き方』で長編映画監督デビュー。パトリン・ハイスミスを映画化した『愛していると伝えて』や『勾留』、そしてイザベル・アジャーニが出演し日本公開もされた『死への逃避行』などで知名度を上げた。シャルロット・ゲンズブールを主演に起用した『なまいきシャルロット』や、トリュフォーの遺稿を映画化した『小さな泥棒』などで世界的成功を収める。その後も、川端康成『眠れる美女』に着想を得た『オデールの夏』や『ニコラ』など独自の世界観に満ちた作品を製作。後者はカンヌ映画祭審査員特別賞を受賞した。2012年に癌で死去。70歳だった。



アンジェイ・ズラウスキー Andrzej Żuławski

1940年、ポーランドのルヴフに生まれる。大叔父は著名な作家であり『シルバー・グローブ』原作者でもあるイェジ・ジュワフスキ。父親も作家だった。フランス留学後に帰国し、アンジェイ・ワイダの助監督を務めるなどして映画界に入る。1971年、長編処女作『夜の第三部分』で監督デビューするが、第2作『悪魔』がポーランドで上映禁止処分を受ける。さらに1977年に膨大な制作費で撮影を開始したSF大作『シルバー・グローブ』がポーランド政府によって撮影中止に追い込まれたことによって、以降ズラウスキーはフランスを中心に活動を続ける。『シルバー・グローブ』は、87年に欠落部分を音声で補う手法で完成された。イザベル・アジャーニがカンヌ国際映画祭で主演女優賞に輝いた『ホセセッション』(1981)や『狂気の愛』(85)などのソフィー・マルソー主演作で国際的知名度を高めた。2016年死去。



開映 終映

4.19 [金] 19:00 20:45 愛していると伝えて

4.26 [金] 19:10 21:05 大事なものは愛すること

各日上映後に映画批評家・大寺眞輔さんの講義が60分程度ございます

料金：一般1900円、各種割引1700円

チケット：上映1週間前の0:00よりオンラインにて販売
(劇場窓口は9:00より販売)

※各種割引：アプリ会員、U22(22歳以下)、シニア、障がい者
※オンライン購入は新文芸坐公式HPよりご利用ください
※上映素材の状態によっては、映像にお見苦しい点がございます

新文芸坐シネマテーク vol.44 愛の困難/ミレール&ズラウスキー

『愛していると伝えて』

Dites-lui que je l'aime

1977/仏/106分・デジタル



監督・脚本：クロード・ミレール

原作：パトリン・ハイスミス『愛しすぎた男』

共同脚本：リュック・ペロー

撮影：ピエール・ロム

音楽：アラン・ジョミ

出演：ジェラルド・バルデュール、ミウ＝ミウ、ドミニク・ラファン、クロード・ピエリュ

デヴィッド・マルティノーは小さな街で孤独に暮らす会計士だ。アパートの隣人ジュリエットは彼に恋している。マルティノーは週末ごとに病気の両親を見舞いに行くと言うが、実は子供時代の恋人リーズと暮らすため雪山の一軒家を整えていた。だがリーズは既に他の男性と結婚していた。

『大事なものは愛すること』

L'important c'est d'aimer

1975/仏・伊・西独/113分・デジタル



監督・脚本：アンジェイ・ズラウスキー

原作：クリストファー・フランク

撮影：リカルド・アロノヴィッチ

美術：ジャン＝ピエール・コムニスヴェルコ

音楽：ジョルジュ・ドルリュ

出演：ロミー・シュナイダー、ファビオ・テスティ、ジャック・デュロン、クラウス・キンスキー

ゴシップ誌のカメラマン・セルヴェは安っぽいボルノまがいの映画で日銭を稼ぐ女優ナディーズに一目惚れする。セルヴェは彼女を救うためギャングから金を借りて舞台に出資し、彼女に役を与える。ナディーズもセルヴェに惹かれるが、同時に夫のジャックにもまた道義的責任を感じていた。

感動はスクリーンから
新文芸坐

03-3971-9422

www.shin-bungeiza.com

twitter:shin_bungeiza

東京都豊島区東池袋1-43-5
マルハン池袋ビル3F



共催：IndieTokyo



大寺眞輔

映画批評家、早稲田大学・日大芸術学部講師。「キネマ旬報」「文學界」「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」などで映画批評を執筆。著書に「現代映画講義」など。
IndieTokyo主宰。

